

まち

No.27 2026年 秋号

発行日：令和8年10月21日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務局)
発行責任者：後藤 浩(教室主任)
編集担当：牟田聡子、栗本賢一
制作：株式会社 ムーンドッグ

巻頭言

書を持って、〈まち〉に出よう

「書を捨てよ、町へ出よう」とは、歌人で劇作家の寺山修司の言葉です。私はこれをもじって、学生によくこう話しています。「書を持って、〈まち〉に出よう」と。

なぜ捨てずに、持つのか。私の座右の銘は「知行合一^{ちこうごういつ}」です。明代の思想家、王陽明が唱えた言葉で、知ることと行うことは本来ひとつである、という意味です。教科書から得た知識は〈まち〉を歩き、人と話し、手を動かすことで、初めて具体的な輪郭を持ちはじめます。一方、問いや仮説を持たずに歩くだけでは、目の前の風景から十分な意味を読み取ることはできません。学ぶことと、現場で確かめ形にすること。その往復によって「知」は深まり「行」は磨かれていきます。

私自身の「知」と「行」の往復は、北京の建築設計事務所での実務から始まりました。複合都市開発をはじめとする数多くのプロジェクトに携わった後、日中合弁のシンクタンクの立ち上げに加わり、建築から都市計画、地域産業まで、分野を横断する実務に取り組んできました。そこで得た経験を学術として捉え直したいと考え、働きながら本学大学院の門を叩きました。進んだ先は、まちづくり工学専攻の博士後期課程です。岡田智秀先生の指導のもと研究に取り組み、同専攻の第一号となる博士号を取得しました。実務で重ねた「行」を「知」へと編み直す、もうひとつの大きな一歩でした。振り返れば、私の関心は、建築をつくることから、〈まち〉を考えること、さらに地域の産業や人材の育成、組織づ

くりへと、少しずつ広がってきました。

現在、私は「都市と産業」、言い換えれば「くらしとしごと（なりわい）」の関係を研究テーマに据えています。門前町、城下町、



コンペから施工監理まで携わった複合都市開発「北京ピクセル」(総建築面積約70万m²・約1万住戸)

contents

巻頭言	1
特集 まちづくり工学科8期生の「職場での活躍」	2
災害を契機とした社会インフラ更新とまちづくり	9
まちづくり工学科創設10周年記念祝賀会報告	10
学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」	11
令和8年度前期「まち」行事・イベントカレンダー	13
教職員・学生の活躍	14

助教 栗本賢一



港町。その名が示すように、まちの形姿は、そこで営まれるなりわいとともにつくられてきました。

わが国には、創業100年を超える企業が数多くあります。長く続く企業の中には、核となる価値を受け継ぎながら、時代に応じてなりわいの形を更新してきたところも少なくありません。〈まち〉が生き続けるためにも、同じように更新が欠かせません。守るべきものを見定めながら、くらしとなりわいを更新し続けること。それが、次の時代へ〈まち〉をつなぐ力になるのだと考えています。

では、これからの時代に〈まち〉やなりわいの更新を担うみなさんには、何が求められるのでしょうか。いま、学び方や働き方、そして「知」のあり方も、大きく変わりつつあります。AIは、計算や情報整理だけでなく、文章や画像をつくり、発想を広げることもできるようになりました。だからこそ人に求められるのは、単に「答えを出す力」だけではありません。何を問うべきかを考え、異なる知識と現場の事実を結びつけ、その結果に責任を持って「行動する力」です。その出発点となるのが、「おもしろそう」「なぜだろう」という好奇心です。

新しい問いは、何もなかったところから突然生まれるわけではありません。ひとつの専門を深く学び、そこで得た知識を異なる分野と結びつけることで、これまで見えなかった問いが立ち上がってきます。本学科で出会う都市計画、土木・建築、環境・防災、景観・観光、健康・福祉といった分野は、互いに独立しているのではなく、現実の〈まち〉の中で複雑に結びついています。まずは自分の軸となる専門を育て、そこから異なる分野へ橋を架けてください。

「知」は行うことで初めて力になります。書を持って、〈まち〉に出てください。小さな一歩で構いません。学び、歩き、考え、再び学ぶ。その積み重ねが、皆さん自身のキャリアを形づくり、次の100年の〈まち〉を紡いでいくはずです。

まちづくり工学科8期生の

職場での活躍

まちづくり工学科の誕生から13年。「暮らしの総合デザイン」という理念を胸に、多くの卒業生が社会へと羽ばたいていきました。本誌『まち』の恒例企画「卒業生の活躍」も、今年で8回目を迎えます。

今回スポットライトを当てるのは、2024（令和6）年春に大学・大学院を旅立った8期生の皆さんです。建設コンサルタントや建築施工、住宅メーカー、エネルギー・インフラ、公務

員、シンクタンクまで一学科の大きな強みである高い就職率と「多角的な学び」を生かし、社会のさまざまなフィールドで一步を踏み出した先輩たちの「今」をご紹介します。

秋風に肌寒さを感じる10月。特にこれから本格的な就職活動や進路選択に向き合う3年生や、将来の夢を描く高校生の皆さんにとって、少し前まで同じキャンパスで悩んだり挑戦したりしていた先輩の姿は、きっと未来の自

分を重ね合わせる等身大の道しるべになるはずです。

まちづくり工学科で学び、そして今、まさに「まち」を創っている先輩たちが、どのような学生時代を過ごし、どのように自分の「やりたいこと」を見つけたのか。

多種多様な業界で活躍する先輩たちが歩んだリアルな軌跡から、みなさんが描く未来へのヒントと、新たな一步を踏み出す勇気になれば幸いです。



総合建設コンサルタント



建設コンサルタント



建設（総合建設）



建設（住宅・建築・不動産）



電気・ガス



公務員

まち科8期生に聞きました。

1
どんな仕事を
していますか？

2
お仕事での目標は
なんですか？

3
学生時代に打ち
込んだことは？

4
後輩に就活への
アドバイスを！

・卒論テーマ、修論テーマの研究室名は、在学時のものです。

株式会社長大 社会創生事業本部まちづくり事業部PPP推進部

卒論テーマ 百貨店の立地状況と撤退後の跡地活用実態に関する研究

—立地適正化計画と跡地用途の関連性に着目して— (山崎研究室)

修論テーマ 百貨店撤退後の建物・跡地利活用に関する研究
—中心市街地活性化基本計画認定後の事例を対象として— (山崎研究室)

1

私は、国や地方公共団体が推進する政策やプロジェクトに対して、PPP/PFIを専門領域とした行政支援を行っています。PPP/PFIは、公共施設や公共サービスの整備・運営に民間企業のノウハウや資金を活用し、より効率的で質の高い行政サービスの提供を目指す手法です。「まちづくり」の分野では、地域の将来像や課題を整理する上流段階から携わることが多く、事業構想の立案、官民連携手法の検討、事業者選定支援などを通じて、持続可能な地域づくりと公共サービスの向上に貢献しています。



社内協議の様子

2

公共施設には公園や庁舎をはじめ多様な分野があり、それぞれに関連する法制度や事業手法も異なるため、建設コンサルタントとして業務に携わる中で、日々の自己研鑽の重要性を強く実感しています。

社会人3年目となり、業務の主担当を任される機会も増えてきたことから、これまで経験の少ない分野や苦手意識のある業務にも積極的に挑戦し、知識と経験の幅を広げていきたいと考えています。また、業務を通じてマネジメント力や調整力を磨き、行政や民間企業から「PPP/PFI分野のことなら西山に相談したい、任せたい」と信頼される技術者になることを目標としています。

3

学生時代は、学業・プライベートを問わず「さまざまな経験を積むこと」を大切にしていました。学業では、大学院生として研究活動に取り組むだけでなく、研究室運営にも積極的に携わり、院生と学部生が密にコミュニケーションを取りながら御茶ノ水駅周辺のまち模型を作成するなど、チームで一つの成果をつくり上げる経験をしました。プライベートでは、大学の友人と関東近郊をドライブしながらさまざまなまちを訪れたり、ダンスサークルに所属して学科の垣根を越えた仲間との交流を深めたりしました。こうした多様な経験を通じて培ったコミュニケーション力や幅広い視野は、現在の業務においても大いに活かされていると実感しています。

4

後輩の皆さんには、「まちづくりに携わりたい」という漠然としたイメージだけで就職活動を進めるのではなく、自分がどのフェーズに関わりたいのかをできるだけ具体化してほしいと思います。まちづくりには、計画・設計・建設・運営などさまざまな段階があり、それぞれ求められる役割や働き方が異なります。そのため、自分がやりたいことと業界・企業の特徴をしっかりと結び付けて考えることが重要です。

また、まちづくり工学科には多様な分野で活躍するOB・OGがいるという大きな強みがあります。先生やOB・OGに積極的に話を聞き、自ら行動することで視野が広がり、自分の将来像も明確になります。納得できる答えが見つかるまで自問自答を繰り返し、自分なりの軸を持って就職活動に取り組むことが、充実した社会人生活につながると思います。

研究室一丸となって
取り組んだイベント運営

まち科8期生に
聞きました。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

建設コンサルタント

梅澤 駿

株式会社地域開発研究所 研究部

卒論テーマ わが国の港湾における臨港地区の分区指定の動向に関する研究
—1985年度から2000年度までの「都市計画年報」を対象として—
(岡田・落合・田島研究室)

修論テーマ わが国の臨港地区における分区制度の運用方策に関する研究
—国際戦略港湾と国際拠点港湾の全23港に立地する
一般開放施設を通して— (岡田・落合・田島研究室)



好きな「まち」
門司港

出身高校
日本大学
三島高等学校

1

私は港湾分野を専門とする建設コンサルタント企業である株式会社地域開発研究所に入社し、研究員として、港湾における物流・賑わい創出による地域活性化に関する調査・計画づくりを行っています。業務では、統計データの分析、自治体や関係企業等へのヒアリングやアンケート調査によって、地域や港湾の特徴や課題を整理し、施策の方向性を提案しています。業務成果を活かして、学会等の研究発表を行い、調査・説明能力を研鑽する毎日です。全国各地の港湾やまちを訪れ、地域ごとの魅力や課題を発見できることも、この仕事の魅力の一つです。また、自分の調査や提案が地域の将来につながることにやりがいを感じています。

2

仕事では、全国各地の港湾を対象に業務を担当しています。地域ごとの特色や魅力を深く理解したうえで、地域の発展に貢献できる提案力を身に付けることを目標としています。

今後はAIやデジタル技術がさらに発展し、多くの業務が効率化されると思います。その中でも、人と人との対話を通じて課題を整理し、地域住民、企業、行政などの各関係者の思いを形にしていく役割はますます重要になると考えています。

将来的には、地域の未来について誰よりも真剣に考え、その発展に貢献できたと胸を張れる仕事を一つでも多く手掛けられるよう、日々知識と経験を積み重ねていきたいと思っています。



港湾に関する調査研究の
成果を学会で発表

3

学生時代は研究室活動に力を入れていました。研究活動、実際のまちで行う研究室プロジェクトに意欲的に取り組んできました。特に、研究室プロジェクトでは「荒川区景観まちづくり塾」に参加し、地域の方々と荒川区特有の景観について考え、対話を通じて異なる価値観や視点に触れることができました。また、ワークショップの中で自分たちの意見として形にするなかで、相手に分かりやすく伝えることの難しさと面白さを学ぶとともに、対話を通じて、まちづくりは一人ではなく、多くの人の思いをつなぎながら進めていくものだ実感しました。この経験が、現在の仕事を志すきっかけの一つになっています。



地域の方々と景観に
ついて意見交換

4

進路や就職先を考える際、「何になりたいか」だけでなく「どこに興味を持ち、どんな課題にどう関わりたいか」を考えてみることを、後輩たちにおすすめています。私も「研究員として調査や計画に携わりたい」と、学生時代から明確にイメージできていたわけではありませんでした。どんな選択にも答え合わせはありません。そして、結果は後からついてくるものだと思います。私自身も、自分の選択が正しかったのか悩むことが何度もありました。しかし、その時々で自分なりに考え、選択してきた経験が今の自分を支えています。だからこそ、周囲と比較せず、自分で選んだ道を信じて進んでほしいと思います。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

田村 元二

鹿島建設株式会社 東北支店

卒論テーマ 鉄道駅の開業と駅周辺の市街化の特徴に関する研究
— 京王電鉄と小田急電鉄を対象として —
(阿部研究室)

出身高校

日本大学櫻丘高等学校

好きな「まち」
仙台市まち科8期生に
聞きました。

1

現在、私は入社して2現場目、製薬工場の建築現場で施工管理の仕事をしています。施工管理は、現場におけるSEQDC（安全・環境・品質・工期・コスト）の5項目を中心に、工事を円滑に進めるための計画・管理をする仕事です。

現在は比較的小規模な現場のため、工事全体を満遍なく担当していますが、建物の用途や規模によって担当できる工種が違います。そこも現場の面白さです。

暑い日も寒い日も、雨の日も風の日も、現場に出て仕事をします。大変なこともあります、実際に建物が完成した時の達成感。1/1スケールでのものづくりを経験できるのはこの仕事の特権です！

鉄骨建方の精度チェック！
建物の品質確認は大切な業務です



2

私の目標は大規模な現場の所長になること、一流の建築技術者になることです。現場で働いていると、尊敬できる先輩や職人さんに多く出会います。皆、ものづくりに対する情熱と確かな技術を持っています。私はまだまだ未熟でわからないことだらけですが、そういった方々と一緒に仕事をしていると「早く追いつかなきゃ」という気持ちになってきます。

目先の目標としてはまず、一級建築士の資格取得。そしてこれから多種多様な現場での実務を経て、日本の誇れる建築屋さんになれるよう精進していきます。

3

私が学生時代に打ち込んだことは、読書と旅行に行くことです。これが何かの役に立ったのかはわかりませんが、時間のある学生のうちだからこそ、できることだと思います。本を読んでいろんな人の考えに触れてみる、海外に行っていろんな景色を見てくる、国内の美味しいものをたくさん食べて回る、特別な目的があったわけではありませんが、結果として世界遺産検定の取得や、いろいろな物事に興味を持つきっかけにもなりました。

ぜひ学生のうちに自分の世界とは違うものにたくさん触れてみてください。

阿部先生と研究室の仲間
みんなでフットサル！

4

私ができるアドバイスは、就活を早く始めるということです。たとえ志望業界が決まっていなくても、早く始めてたくさんの情報を集めることが、就活をうまく進めるためのコツだと思います。

私は最初からゼネコンに絞っていたため、他業種のことはあまり詳しくありませんが、この業界はどの会社もやる気のある学生を早期に集めようと動いています。大学生ですから、勉強や研究を第一に取り組んでいただくのはもちろんですが、合間の時間を使って早めに説明会や各社のイベントに参加することをお勧めします。ただし、就活だけにとらわれず、自分の好きなことに全力で取り組んでください。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

山地 康介

大和ハウス工業株式会社 まちづくり統括部

卒業テーマ 箱根観光における組織間連携の実態に関する研究(押田研究室)

修論テーマ 登録観光地域づくり法人の運用における現状と課題に関する研究(押田研究室)

出身高校

日本大学高等学校

好きな「まち」
川崎市

まち科8期生に
聞きました。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

1

私はまちづくり統括部という複合的な不動産開発を推進する部署に属しており、現在は約14haの大学病院跡地のまちづくり事業を担当しています。複合用途の大規模開発であることに加えて、期間が長期にわたる事業のため、先々に起こりえる課題点を見据えながら、日々業務に邁進しています。

大学病院という単一の用途で形成されてきたまちが、これからは複合的な機能を持つまちへと生まれ変わります。私はその変革のかじ取り役として事業に参画しており、暮らしや賑わい、交流が共存する新しいまちの姿を描いています。



打ち合わせの様子

2

日々の業務を通じて、まちづくりを推進する上で必要な法令知識や、造成計画図作成のための基礎的な作図スキル、さらには先々の課題を見通して行動するための課題発見力などが不足していると痛感しています。

まちづくりに関する周辺知識の向上に努め、事業を円滑かつ迅速に進め、滞りなく完遂できることを目標としています。かつ、こうした技術の研鑽を怠ることなく積み重ね、ゆくゆくは不動産開発のエキスパートとして業務に貢献し、胸を張って「このまちは私がつくった」と言えるような仕事を成し遂げたいと考えています。

3

私が学生時代に打ち込んでいたことは、資格勉強と開発事例見学です。いずれも志望する都市開発業界を目指す上で強みになると考えたので、始めました。

資格勉強では計画的な学習目標を立てて勉強を進め、宅建士に合格することができました。事例見学では、開発計画や建物配置などの意図を考え、気が付いたことをまとめながら巡っていました。最終的には70カ所以上の開発事例を訪れています。

これらの経験を通じて、目標に向かってひたむきに努力することの大切さを学ぶとともに、その積み重ねが自信へとつながっていくことを実感しました。

4

就職活動において重要なことは、準備と行動だと思います。まずは自身が志望する業界を見つけることから始め、その業界にアピールできる経験や強みを整理してみてください。きっと自分に不足していると感じる点が見えてくるはずです。その課題がわかれば、あとはそれらを補うための経験を積むべく行動するのみです。

就職活動は、多くの学生にとって緊張と不安の連続だと思います。そのような状況で背中を押してくれるのは、これまで積み重ねてきた経験と努力です。新卒の就職活動という一度きりの舞台で、ご自身の強みを最大限に発揮できることを、心より応援しております。



趣味のスノボ中

高橋 舞緒

好きな「まち」
銀座出身高校
日本大学豊山女子
高等学校

電源開発株式会社 土木建築部

卒論テーマ 通信鉄塔を対象とした設計用
解析モデル化法の検討(仲村研究室)修論テーマ 避難施設周辺に立地する道路橋の
通行可否が災害時の避難経路に及ぼす影響
—全国道路施設点検データベースを活用して—
(仲村研究室)

1

入社1年目は水力発電所で、発注者の立場から請負人が行う工事が契約どおりに履行されているかを確認する施工監理を経験しました。2年目からは土木建築部に所属し、施工計画の立案や積算、発注、施工監理支援までを一貫して担当しています。

積算は、適正な工事価格を算定したうえで契約を締結するための重要な業務です。この業務は工事全体のコストや品質にも影響するため、常に正確さと根拠が求められ、責任の大きさを実感しています。その一方で、自らが積み上げた積算をもとに契約が締結できたときには大きな達成感があり、やりがいを感じられる仕事だと考えています。

2

電力業界の工事は、土木だけでなく電気や機械など他部門と関わる機会が多く、幅広い視野が求められます。私はこれまで培ってきた土木の専門知識に加え、他分野への理解も深め、部門を越えて全体を見渡せる力を身に付けたいと考えています。また、大規模な工事になると、社内外の多くの関係者との連携が欠かせません。一つひとつのやり取りを大切にしながら、コミュニケーション力と調整力を磨いて、電力の安定供給に貢献していきたいと考えています。

グラウンドアンカー
工事完了検査

3

大学院では、研究と趣味の両方を充実させることに力を注ぎました。研究は集中する時期とそうでない時期でメリハリをつけ、計画的に成果を出せるよう心がけていました。博士前期課程2年の夏に土木学会の査読論文を投稿したときと、冬に修士論文をまとめたときは、かなり根を詰めて研究に取り組みました。

効率よく取り組むことでまとまった時間を生み出し、旅行にもよく出掛けました。大学院の2年間でアメリカ・フランス・シンガポールを訪れたほか、国内各地にも行っていました。訪れた土地ごとに異なる街並みや人々に触れることで、視野も大きく広がったと感じています。

シンガポールのユニバ
に行きました

学びも遊びも全力で楽しんだこの過ごし方は、計画的に物事を進める力や幅広い視点となって、今の仕事にもしっかり活かしています。

4

就職活動は、学部2年生から少しずつ始めておくことをおすすめします。まだ進路が定まっていなくても、どんな業界があり、その業界がどのような役割を担っているのかを早めに把握しておく、自分の興味の方向性が見えてきます。その際、まちづくり工学科の卒業生の就職先だけを見るのではなく、土木工学科や建築学科の就職先にも目を向けてみてください。分野が近い学科の進路を知ることで、まちづくり工学で学んだ知識や視点が活かせる職業が想像以上に多いことに気づけると思います。時間に余裕のあるうちから視野を広げ、納得のいく進路をじっくり選んでほしいと思います。

まち科8期生に
聞きました。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 先輩に就活へのアドバイスを！

公務員

澤井 悠樹

好きな「まち」
佐野市

栃木県 安足土木事務所

卒論テーマ 砂防堰堤の施設更新の優先順位に
関する研究(後藤研究室)

出身高校

群馬県立太田東高等学校



1

私は栃木県安足土木事務所整備第二課に所属し、3年目を迎えています。主に道路・河川・砂防などのインフラ整備に関わり、設計から工事まで一貫して担当しています。

近年は豪雨災害の増加により、道路冠水や河川氾濫への対策が重要となっており、調整池の整備や河川の強靱化を進めています。

現在は調整池整備工事を主に担当し、工事の発注や監督業務に日々取り組んでいます。

2

私の目標は、栃木県の活性化に貢献できる職員になることです。

栃木県では、激甚化・頻発化する自然災害への対応に加え、人口減少や高齢化による地域活力の低下など、さまざまな課題を抱えています。こうした課題に対応するためには、県だけでなく市町村や関係機関と連携しながら、10年後、20年後を見据えたまちづくりやインフラ整備を進めることが重要だと考えています。

現在は防災・減災を目的とした事業に携わっていますが、今後はその経験を生かし、中心市街地の活性化や地域のにぎわい創出につながる事業にも携わりたいと考えています。



建設中の調整地

3

大学時代は一つのことに限定せず、さまざまなことに挑戦していました。アルバイトや社会人サークルへの参加、海外旅行、資格の勉強などを通じて、多くの経験を積むことができました。特にアルバイトでは、お客様への対応や職場での人間関係を通じて、対人スキルを養うことができたと感じています。また、海外旅行では異なる文化や価値

観、まちなみの違いなどを肌で感じることができました。

社会人となった今でも、こうした経験はさまざまな場面で活かされていると実感しています。



韓国旅行で訪れた
DMZ モニュメント
のある観光地

4

就職活動では、志望する企業や自治体をできるだけ早く決めることが重要だと思います。やりたい仕事や明確になっていない人は、企業の知名度や業界への興味をきっかけに進路を考えるのも一つの方法です。

志望先が決まったら、過去の試験内容や選考方法を調べてみてください。試験内容を知ることで、自分にどのような知識や経験が不足しているのかを把握できると思います。その際には、自分が面接官になったつもりで自分自身に質問すると、今の自分に足りないものを見つけやすくなると思います。

また、途中で進路が変わったとしても、それまでに取り組んだ対策や経験は他の進路でも活かせることが多いと感じています。

就職活動は早期化が進んでいるため、早めに行動して、自分に合った進路を見つけてほしいと思います。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

日本大学海外派遣研究員（短期B）として、2025年8月10日から25日の期間に、米国ワシントン州シアトル市、オレゴン州ポートランド市、カリフォルニア州ロサンゼルス市を訪問し、自然災害を契機とした社会インフラの老朽化対策とまちづくりの事例について現地での調査を行いました。本稿では、シアトル市での視察結果を報告します。

■ 老朽化と耐震性に不安を抱えていた巨大高架橋

シアトル市における「アラスカン・ウェイ高架橋」の撤去及びトンネル化事業は、都市中心部の既設高架橋を撤去することで都市再生を図るプロジェクトです。

撤去されたアラスカン・ウェイ高架橋は、シアトルのダウンタウンのエリオット湾に面するウォーター・フロント地区を縦断する、約1.7 kmの2層式高架橋でした。1954年に建設され、幹線道路である州道99号の一部として1日約11万台の交通量を担っていました。しかし、同橋は1989年のロムプリエータ地震で崩落し多数の犠牲者が生じたオークランド市のサイプレス高架橋や、サンフランシスコ市内の州際道路80号と同様の構造形式であったため、かねてより耐震性が懸念されていました。

■ 大地震の発生と顕在化したインフラの危機

2001年2月28日午前10時54分（現地時間）にシアトル南西約50 kmを震源とする Mw 6.8のニスカリー（Nisqually）地震が発生しました。シアトル市内では MMI（改正メルカリ震度階）で震度7が観測され、軟弱地盤上の社会インフラや建築物を中心に被害が生じました。アラスカン・ウェイ高架橋においても杵座等に損傷が確認されたものの、直ちに応急復旧工事が実施され、大型車の通行規制や速度規制下での供用が再開されたとのこと。しかし、震災以前からの課題であった高架橋の老朽化や耐震性不足に加え、隣接する木製

護岸の老朽化も著しく、抜本的な対策が急務となっていました。さらに、高架橋によるダウンタウンと水辺のアクセス分断の解消も長年の課題とされていました。

■ 老朽化対策を「都市の魅力向上」へ転換

震災後、高架橋の処遇について複数の選択肢が検討されました。度重なる市民協議等を経て、最終的に高架橋を撤去し、地下トンネルを通す案が採択され、景観の回復と都市機能の向上が図られることとなりました。

2019年に高架橋の撤去工事が完了した効果として、ダウンタウンからエリオット湾への視界が開け、景観は一変しました（写真1）。ダウンタウンとエリオット湾の連続性が回復した様子は、高所からも確認できました（写真2・3）。

高架橋撤去後の空間整備としては、2010年に開始された「ウォーターフロント・シアトル・プログラム」に基づき、アラスカン・ウェイにおける車線縮小による広幅員歩行者空間の確保（写真4）や、ダウンタウンの観光地パイク・プレイス・マーケットと水辺を直結する歩行者通路オーバー・ルック・ウォーク（写真5）等の整備が行われました。現地では地域住民や観光客の姿が多く見られ、賑わいが創出されている様子が見受けられました（写真6）。

現在もプロジェクトは進行中であり、歩道整備が進められている様子も確認できました（写真7・8）。

本事例は、地震被災を契機とした社会インフラの老朽化対策という課題を、都市の魅力を高める機会へと転換した好例と言えます。

最後になりましたが、海外派遣研究の機会をいただき、学内外の方々からご支援・ご協力いただきましたことに心より御礼申し上げます。



1 ダウンタウンから望むエリオット湾



2 スペースニードルからの眺望



3 ケリーパークから見渡すシアトルの街並み



4 生まれ変わったアラスカン・ウェイ



5 街と水辺を直結する「オーバー・ルック・ウォーク」



6 活気あふれる水辺の賑わい



7 現在も進められている歩道などの整備



8 市民や観光客にプロジェクトを伝える案内看板

2026（令和8）年3月22日に当学科創設10周年記念祝賀会を日本大学本部校友会の施設である「桜門会館さくらホール」にて挙行了しました。本来であれば2023年度に実施したかったのですが、コロナ禍により3年ほど実施が遅れました。遅れたものの「満を持しての開催」との強い共通の意識のもと教職員一同、当日、参加者を迎えました。

この祝賀会には、来賓として、学部長の轟朝幸先生をはじめとした日本大学理工学部執行部・各学科教室主任の先生方や、当学科を退職された先生方（初代教室主任かつ日本大学名誉教授の横内憲久先生、日本大学名誉教授の天野光一先生、日本大学名誉教授の青木和夫先生、城内博先生、小木曾裕先生）にご出席いただきました。また、OB・OGにおかれましては、予想を超えた87名ものご出席を賜ることができました。大変な盛会で、私としては、ご参加の皆さま方に改めて大変感謝する次第です。

教室主任である私から出席者への挨拶で開会し、轟先生、横内先生から祝辞をいただきました。両先生からは、異口同音に「まちづくり工学科への期待」を込めた温かいお言葉を頂戴しました。次に、岡田智秀教授による「今だから言う！まちづくり工学科誕生秘話」といった趣旨の、学科創設時の紆余曲折の紹介がありました。創設時から在籍していた教員にとっては「ああ、そうだった！」との確認の場、新

任の教員や執行部・他学科の先生方、卒業生の皆さまには「へえ、そうだったんだ！」と当学科の歴史を知る学習の場であったと感じました。

理工学部校友会まちづくり部会の小國敬太会長（3期生）の発声のもと、杯が上げられ歓談に移りました。360度の全方位、懐かしい顔ぶれが並び、とても良い時間でした。中盤には余興として、各期の卒業生から一言を頂戴していただきました。一部の卒業生からはやや耳の痛い話もありましたが、それぞれが活躍している様子から、学生たちに施した教育は間違っていなかったと確認でき、当学科の良さを改めて感じました。

参加者同士のお話は途切れませんでしたでしたが終わりの時を迎え、青木先生より締めのお言葉を頂戴しました。回想するような話しっぷりで、私も感慨深く聞かせてもらいました。その後、天野先生から一言いただくとともに、賑々しく三本締めが行われ、無事にお開きとなりました。閉会後も話が尽きない、良い会合でした。

最後になりますが、本文を読む在学生の皆さんへ伝えたいことがあります。今後、20周年、30周年事業が行われるはずですが、皆さんには必ずお声掛けします。在学中ばかりでなく卒業後も旧交を温める場として、周年事業に参加することをぜひお考えください。これが、皆さんに力にもなります。





学科公式YouTubeで
当日の動画を公開しています



まち科10years



【ショート】まち科10years



「若きエンジニア」斉唱

学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」

まちづくり工学科就職指導委員 仲村 成貴

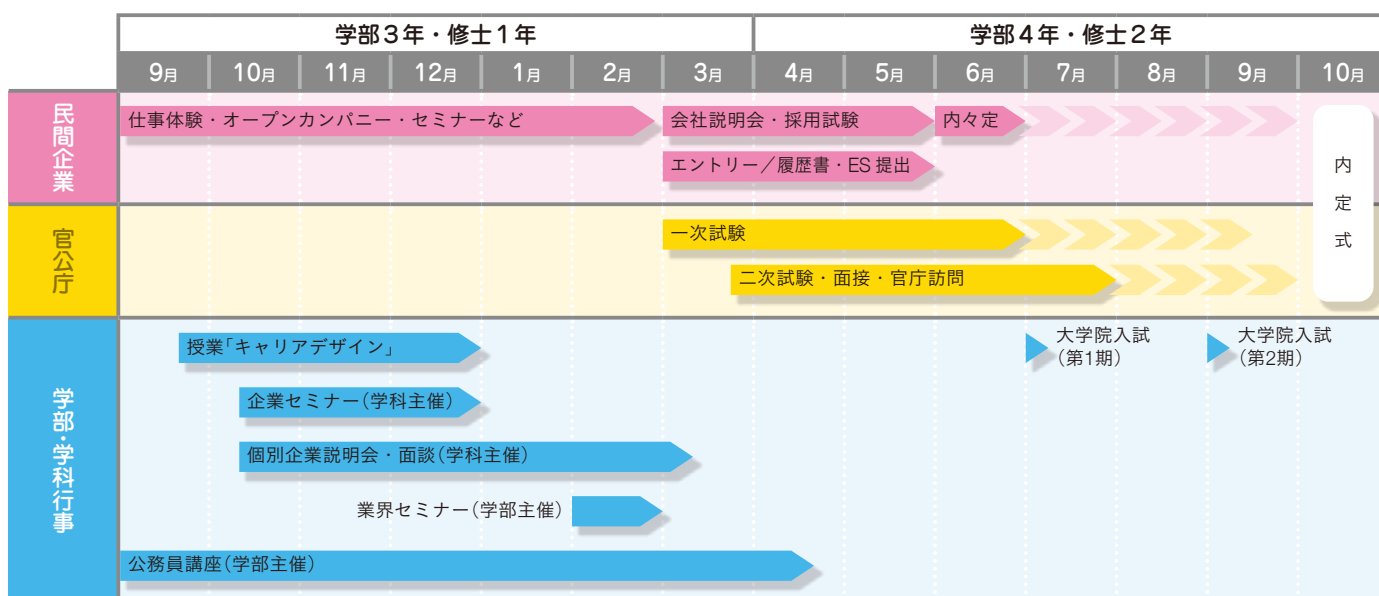
就職活動はみなさんの今後を左右する大切な機会です。この機に将来について真剣に考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。

1. まずはスケジュールを確認しよう

みなさんが対象である2028年（2027年度）修了・卒業者の就活スケジュールについては、2026年度までのスケジュールを踏襲する方針が政府より示されています。しかし、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めることが想定されます。スケジュールの早期化を進める企業・団体が増加するだけでなく、活動期間の長期化がさらに強まりそうです。夏季インターンシップに参加した後に、早期選考

（インターンシップ選考など）を勧められた人もいるでしょう。すでにリクルータと接触して指導を受けている人もいるでしょう。企業が企画した1 day 仕事体験等のイベント参加後に、ES等の書類提出を経て、面接まで受けた人もいるでしょう。決して焦る必要はありませんが、さまざまな業界や業種、職種を知った上で、自分の志望を固めてください。そのことがまちづくり工学を学ぶみなさんの武器となります。

公務員試験については国家公務員採用情報 NAVI (<https://www.jinji.go.jp/saiyo.html>) や 公務員試験情報こむいん (<https://comin.tank.jp/>)、各自治体のホームページ等を頻繁に確認して情報入手しましょう。公務員試験でも試験形態の多様化や試験日の早期化が進んでいます。推薦制度を導入し



キャリア支援・就職活動の概略スケジュール

た自治体も出てきました。筆記試験に SPI 試験を導入する自治体が増えるなど、志望先に応じた対策の必要性が高まっていますので注意してください。

本学大学院入試は、例年7月初旬（推薦・一般第1期）、9月上旬（一般第2期）、3月（一般第3期）に行われます。大学院進学の特長の一つは、研究活動を通じて人間力と専門的な能力を高め、自分の可能性を広げる機会が得られることにあります。ぜひ大学院への進学を検討しましょう。

2. 始動しよう

まちづくり工学科ではさまざまなキャリア支援プログラムを展開してきました。その集大成として、後期月曜5時限目に必修科目「まちづくり工学キャリアデザイン」を開講します。今後のキャリアを形成していくための情報をみなさんに提供し、具体的な進路を考え、対策を進めてもらいます。しっかり取り組んでいきましょう。

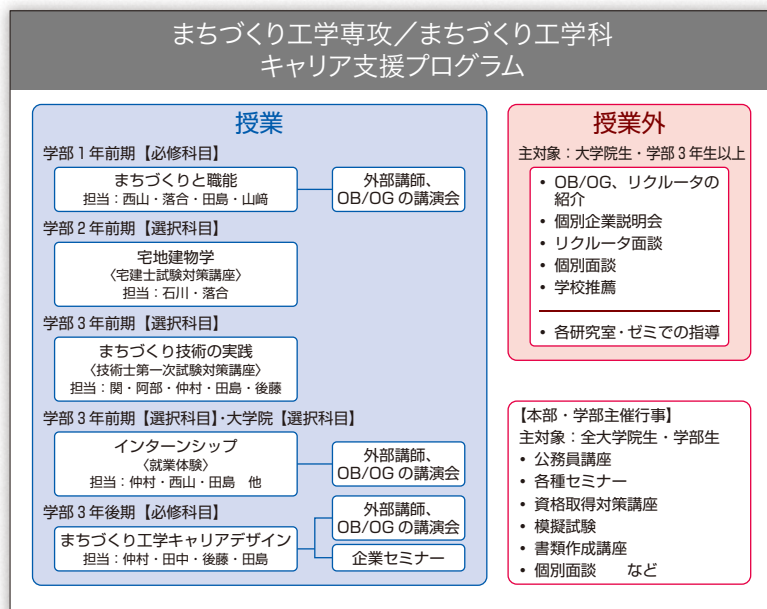
3. 情報収集しよう！

・まちづくり工学科から発信する情報を活用しよう！

まちづくり工学科独自の就職活動支援サイトは、夏季インターンシップでも活用してもらいました。今後も各種情報（仕事体験・オープンカンパニー・セミナー・説明会などの企業や団体によるイベント開催情報、OB/OG・リクルータ提供まちづくり工学科学生向けの情報、求人情報（学校推薦・自由応募）の入手や、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就職体験記・公務員試験合格体験記が閲覧できます。

・まち科や大学主催の行事を活用しよう！

「まちづくり工学キャリアデザイン」の中で「就職活動ガイダンス」と「企業セミナー」、授業外に「企業別説明会・面談」を開催します。特に「企業セミナー」は、まちづくりの学生のために開催する学科主催の対面セミナーです。各社に勤務する本学 OB/OG・リクルータや人事担当の方が、業



界・業種・職種などを紹介、質問にも個別に対応していただきます。学外のセミナーと異なり、少人数形式でじっくり情報収集ができます。パンフレット、Web、SNSでは入手できない、みなさんが本当に必要とする情報を得るチャンスです。また、本部や学部が主催する「公務員講座」「業界セミナー」なども多数開催予定です。大学で開催する行事では、参加企業・団体等がみなさんを過度に勧誘することは決してありません。安心して積極的に参加してください。詳細は、まち科就活支援サイト、Classroom、まち科掲示板、就職全般／公務員メーリングリストで案内します。

4. 注意

就活に気をとられ過ぎて授業をサボってばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

われわれ教員は、できる限りみなさんをサポートしていきます。困ったことや悩みことなど相談も受けますので遠慮なくどうぞ。

まちづくり工学科就職活動支援サイト

NU アカウントでログイン後に、以下の URL もしくは QR コードでまち科就活サイトへアクセスしよう！

まちづくり工学科の教員及び
学生のみ閲覧可能

<https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/machicarrier/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



令和8年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー

3/25 水 卒業式（学位伝達式）
（駿河台キャンパス 1号館151教室
午前11時開始）



押田研究室



仲村研究室



岡田・田島・栗本研究室



落合研究室



西山研究室



牟田研究室



山崎研究室

4/2 木 - 11 土 前期ガイダンス

〈教室主任〉後藤 浩

〈担任〉 1年生 植田 瑞昌、依田 光正、矢作 岳、山崎 晋
2年生 落合 正行、栗本 賢一
3年生 田島 洋輔、西山 孝樹
4年生 阿部 貴弘、押田 佳子、田中 賢、牟田 聡子
大学院 仲村 成貴

〈就職〉岡田 智秀、後藤 浩、田中 賢、仲村 成貴

〈広報〉落合 正行、栗本 賢一、田島 洋輔



1年生集合写真

4/3 金 新入生歓迎式（船橋キャンパス
理工スポーツホール）

4/8 水 入学式（日本武道館）

4/13 月 前期授業開始

6/21 日 オープンキャンパス駿河台（駿河台キ
ャンパス タワー・スコラ S505教室）

学部全体来場者数：2,239名（1,297組）

まちづくり工学科来場者数：700名



6/27 土 後援会父母面談会（台風のためオ
ンライン開催）

7/18(土)

令和8年度第1回修士論文審査会
(駿河台キャンパス タワー・スコラ S302教室)

氏名	題目
(博士前期課程2年生)	
會田 龍一郎	齋藤月峯日記にみる江戸町人の徒歩生活圏に関する研究
青野 かれん	交流促進に寄与する集合住宅のストック活用のあり方に関する研究
大淵 裕太	海上からみた工業景観の魅力向上に関する研究 —京浜臨海地域における工場夜景の印象形成と変容過程—
河西 咲季	静岡県を対象とした地域別通学路の安全管理の実態に関する研究
嘉沼 匠洋	地域鉄道の多面的機能に関する研究 —自然災害からの復旧事例に着目して—
後藤 佑綺	地方都市の「みなとオアシス」登録港におけるまちづくり戦略に関する研究
杉本 知優	地方部における「生活観光」を通じた地域コミュニティの再編プロセスに関する研究
田口 奈緒子	「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」登録団地における公開空地の整備特性に関する研究 —公開空地と周辺建物との関係性に着目して—



8/1(土) - 2(日)

オープンキャンパス 船橋
(船橋キャンパス)

学部全体来場者数：1日目 3,259名 (2,123組)
2日目 4,546名 (2,755組)
まちづくり工学科来場者数：1日目 1,010名
2日目 1,031名
(合計 2,041名)



9/30(水)

9月卒業学位伝達式

まちづくり工学科卒業生：2名

後援会役員（父母役員）※敬称略

1年	小坂 典之	2年	西脇 公治
3年	望月 亮作	4年	澁川 剛史
大学院	大淵 憲之		

教職員・学生の活躍

2026年3月1日～9月30日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します（所属と肩書きは、受賞時・発行時・開催時のものです）。

[受賞]

■ 助教 植田瑞昌

キッズデザイン協議会「第20回キッズデザイン賞」奨励賞
対象：だれもが楽しめる動物園に向けたヒント集
受賞年月日：2026年9月16日

[学会誌掲載]

■ 教授 岡田智秀

記事名：みなとまちづくりの新しい可能性を見出すために
(座談会)
掲載誌：『みなと総研』No.33
発行年月日：2026年7月15日

■ 助教 植田瑞昌

記事名：福祉のまちづくり×レジェンド④
(糟谷佐紀氏、野口祐子氏との共著)

掲 載 誌：『福祉のまちづくり研究』第
28巻第1号

発行年月日：2026年6月15日

■ 3年 柴崎礼菜

記事名：第39回リハ工学カンファレンス
in 東京に参加して

掲 載 誌：『リハビリテーション・エン
지니어リング』Vol.41, No. 1

発行年月日：2026年2月1日

■ 4年 小森祐基

記事名：デフリンピックを観戦して

掲 載 誌：『リハビリテーション・エン
지니어リング』Vol.41, No. 3

発行年月日：2026年8月1日

[雑誌等掲載]

■ 准教授 落合正行

記事名：SOLAZ 都立大学

掲 載 誌：Japan-Architects (Web サイト)
公開年月日：2026年7月28日

記事名：集合住宅特集(「SOLAZ 都立大
学」掲載)

掲 載 誌：『新建築』2026年8月号
発行年月日：2026年7月31日

[講演等]

■ 教授 阿部貴弘

令和8年度千代田区生涯学習ちよだまち魅
力探訪「ちよだの暮らしを支える水辺のイ
ンフラ」

主 催：九段生涯学習館
開催年月日：2026年5月13日

令和8年度定期総会講演会「インフラの歴
史・文化的価値～インフラツーリズムの取
組みを中心に～」

主 催：一般社団法人首都道路協議会
開催年月日：2026年5月21日

ちよだ生涯学習カレッジ第10期地域デザ
インコース「ちよだの魅力にせまる―水都
東京の水辺文化再構築―」

主 催：九段生涯学習館
開催年月日：2026年7月8日

第21回技術研究発表会特別講演「インフ
ラの歴史・文化的価値～地域資産としての
インフラの再生～」

主 催：一般社団法人静岡県建設コン
サルタンツ協会

開催年月日：2026年7月17日

■ 教授 岡田智秀

景観まちづくりの基礎と実践―身近な景観
資源の捉え方と活用―

主 催：栃木県
開催年月日：2026年6月24日

五井駅東口ウォークアブル事業の振り返りと
留意点

主 催：市原市
開催年月日：2026年7月5日

地方都市におけるこれからの持続可能な
「みなとまちづくり」

主 催：静岡県港湾振興会
開催年月日：2026年7月27日

酒蔵をいかした開成町のまちづくり

主 催：株式会社オリエンタルコンサル
タンツ、株式会社瀬戸酒造店
開催年月日：2026年8月6日

行政職員景観研修会「景観配慮の基礎知識
―土木建造物のデザイン(理論と実践)―」

主 催：静岡県
開催年月日：2026年8月21日

4市流域連携「うみさとプロジェクト」の
これまでとこれから

主 催：千葉市、八千代市、佐倉市、
印西市
開催年月日：2026年9月13日

IP(探究)授業「革新的なツリーハウスを
用いて高知県の過疎化を食い止めよう」

主 催：目黒日本大学高等学校
開催年月日：2026年9月24日

■ 准教授 押田佳子

上野の森が出来るまで―徳川家菩薩寺から
日本初の公園へ―

主 催：公益財団法人兵庫丹波の森
協会

開催年月日：2026年6月20日

■ 准教授 落合正行

南流山駅周辺地区まちづくりシンポジウム
「不動産を活かした、にぎわいとまちづく
りを考える」

主 催：流山市役所まちづくり推進課
開催年月日：2026年8月22日

■ 准教授 田嶋洋輔

サイエンスアカデミー出張講義「再生可能
エネルギーを中心とした持続可能なまちづ
くり」

主 催：昭和鉄道高等学校
開催年月日：2026年6月17日

2026年度自然環境復元学会フィールド交
流セッション「自然を体験しながら語り合
う場づくり」(コーディネーター)

主 催：自然環境復元学会
後 援：日本ビオトープ協会
協 力：IGES 国際生態学センター
開催年月日：2026年7月4日

[その他]

■ 准教授 落合正行

んまつーボス 結成20周年記念ダンス公演
「GAME! 一踊れ! ビルド! ー」(出演)

主 催：一般社団法人 namstrops、
the TRADING CITY 研究会
開催年月日：2026年7月25日、26日
協 力：落合研究室有志学生

随時情報を牟田・栗本へメールでお寄
せください。なお、本年度の学会等で
の発表は、次号(3月発行予定)にま
とめて掲載します。

退職教員のご挨拶

退任にあたって

学生時代「福祉まちづくり」に携わって以来50年近くがたちます
が、去る2026年3月に本学科・専攻を退任いたしました。まちづくり
工学科発足以前の建築学科教員時代に、上司でもあった恩師は
「(建築学において) われわれの分野は脇役であり、決して主役では
ない」と自嘲気味に言っていたことが思い出されます。しかし先
生、いまやまちづくりにおいて福祉は大きな流れの重要な地位を占
めるようになりましたよ。私は感無量です。と言いつつ、では福祉
まちづくりは、ほんとうに人々に浸透したのだろうかという現実を
考えてみました。

長きにわたって障害者の権利運動にかかわってきた藤井克徳さん
が、最近、おそらく彼の生涯の活動から得た結論と思います。

——「薄っぺらい共生、内なる優生思想」一思いやりは個人依存
するだけで終わる。政策が先、意識は後。政策を変えることで社
会の意識は変わる。——

彼の姿を身近に見ていた私なりの解釈は、「運動体として一人ひ
とりの理解や善意に頼ってはいはなにもすすまなかった。立法府や
国連の人権機関に働きかけて、圧力をかけてもらうことがもっとも
効果的だった」と。権利運動のパラダイムシフトの必要性を語って
います。悲しくなるかもしれませんが、これが現実と思いました。
多くの建設系技術者やデザイナーは法制度によって「押しつけられ
たバリアフリー」と思っている人が多いことは知っています。とし
ても、人々の生活環境がよくなったことは承知のとおりです。

八藤後 猛 特任教授



そうした中、今月受け取った大学院生のレ
ポートで、明るい未来を予感させることばに
出会いました。過去の偉人や著名な先達のこ
とばではありません。このような考えが受講
者から発せられたことを私は誇りに思うと同
時に、明るい未来を次の世代に託せると確信しました。退任におい
て、私からのメッセージとして代弁してもらいます。

—— 社会が求めるバリアフリーを「制約」として受け取るの
ではなく、身体、知覚、不安、安心、距離感、気配を設計する問題
として受け取ることができる。そのように考えると、バリアフリ
ーは単なる基準適合ではな
く、設計論としての可能性
を持ち、さらには「標準的
な身体」を前提としてきた
近代建築への批評としても
捉え直すことができる、と
思います。——

本学科設立から13年間の長
きにわたってお世話になりま
した。

市立図書館で、こどもに本の読み
聞かせボランティアをしています



新任教員のご挨拶

はじめまして、このたび着任いたしました矢作岳と申します。私
は、歴史的空間の修復・整備を得意とするランドスケープアーキテ
クトです。これまで、遺跡や歴史的庭園の保存・活用をはじめ、変
化し続ける日本庭園の動的な特徴をデジタルデータを用いて解析す
るなど、研究と実践の両輪で活動してきました。

近年、まちづくりにおいてオープンスペースや緑地・公園が目
される機会が増えました。しかし、遺跡空間はさまざまな文化財的
制約から不明瞭な空間が生じてしまったり、十分に活用されなかつ

矢作 岳 助手



たりして、もったいない状態になっているこ
とが少なくありません。私はここにデザインの
視点から切り込み、新たな整備手法の開発
につなげていきたいと考えています。

地域や都市にある貴重な資源を活かしたま
ちづくりのあり方を皆さんと一緒に考えてい
きたいと思います。

教員人事

■ 昇格

山崎晋准教授が「教授」へ昇格(4/1)

田島洋輔助教が「准教授」へ昇格(4/1)

牟田聡子助教が「准教授」へ昇格(4/1)

昇格



昇格



昇格



編集後記

今夏のオープンキャンパスは、本学科ブースの来場者数が過去最高を記録し、例年以上の熱気に包まれました。会場では、展示パネルを真剣に見つめる高校生と、高校生へ自分の言葉で堂々と学科の魅力を語る在学生の姿があふれ、自分たちの未来を懸命に考える若者の姿に心を打たれました。自分の学びやキャンパスライフを生き活きと語れる学生が多いことは、本学科の大きな自慢であり誇りでもあります。年齢も立場も違う人々が「まちづくり」という共通のキーワードでつながり、対話が生まれる——そんな温かい空気感を改めて実感した夏となりました。さて、秋は在学生も高校生も、自身の未来に向けた選択と準備が進む季節です。本誌が届ける内容がそんな彼らの歩む道をそっと照らすきっかけになれば幸いです。どうぞ実り多き秋をお過ごしください。

(牟田)